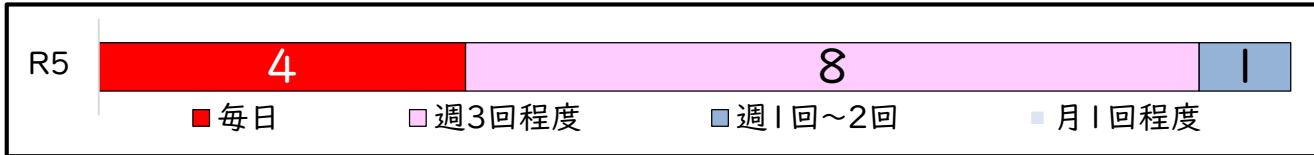


小郡市では、令和5年度のICT教育推進のねらいを「主体的・対話的に学び深める」として取り組んできました。年度末にあたり、本年度のICT活用の実態を把握するため、市内の教職員及び小学5年生・中学2年生とその保護者を対象にアンケート調査を行いました(令和6年1月～2月)。

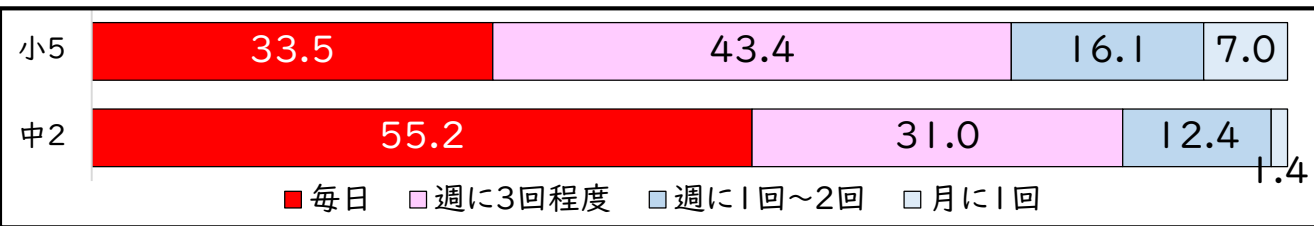
本調査では、学校におけるタブレットの活用状況や学校現場における学習効果、タブレットの持ち帰りについての実態、児童生徒や保護者の関心などを中心に質問項目を設定しています。

学校の授業での活用状況(教職員、児童生徒対象)

◆授業でのタブレット活用をどの程度行っていますか(教職員対象) ※数字は学校数(校)



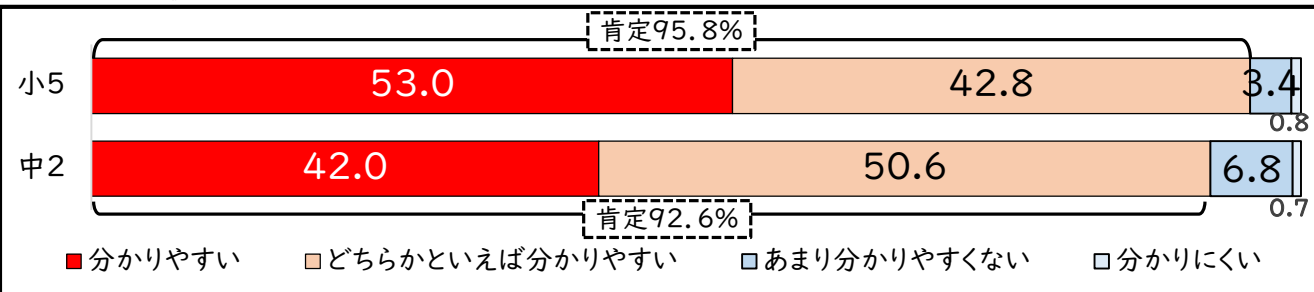
◆授業ではタブレットをどのくらい使っていますか(児童生徒対象) ※数字は割合(%)



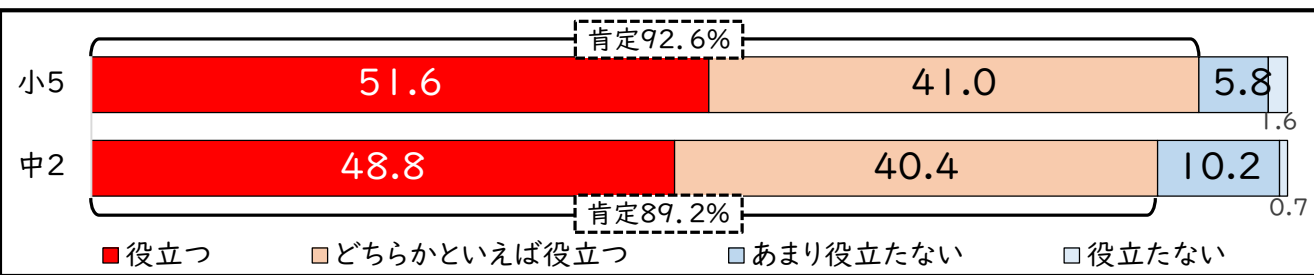
ICT活用に関するアンケート(児童生徒対象)

※数字は割合(%)

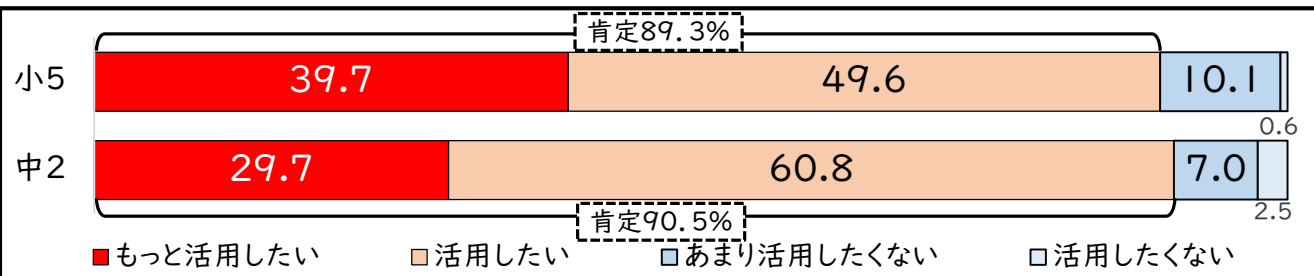
◆タブレットを使った学習は分かりやすいですか



◆授業でタブレットを使うことは、自分の考えをつったり、考えを深めたりすることに役立つと思いますか。



◆これからもタブレットを活用したいですか。



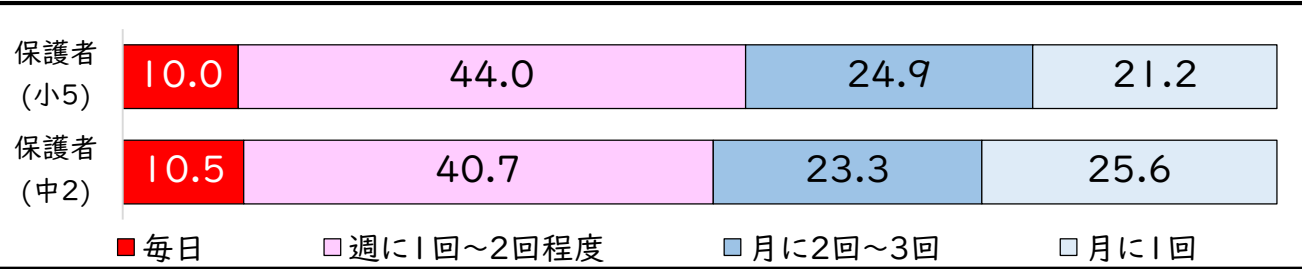
タブレットを活用したい理由・(児童生徒)

- ・たくさん調べられるし、共有ノートを使って、友達と共有できるから。
- ・発表は苦手だけど、タブレットなら自分の意見を書きやすい。
- ・タブレットがあることで、グループ活動で活発な話し合いができるようになったから。
- ・高校でもタブレットでの授業が増えると思うので、中学のうちに慣れていたいから。
- ・ノートなどに書き込むよりも正確で簡単だから。・家に帰ってからでも授業が復習したりできるから。
- ・スタディーログ(学習内容や気づき、理解度などを自分の言葉で記録したもの)を有効に使って復習したいから。

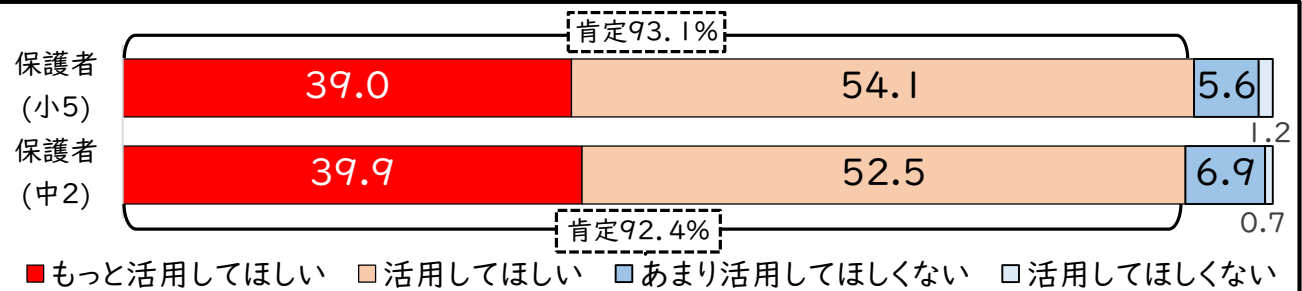


考察 多くの学校で授業での活用頻度が上がり、効果的な活用が進んでいます。また、タブレットを活用することで理解度が増したり、自分の考えをつったり深めたりできている子どもが増えています。

◆家で学校配布のタブレットをどのくらい使っていますか。



◆これからもタブレットの活用を進めてほしいと思いますか。



タブレット活用を進めてほしい理由（保護者）

- ・これからの時代に不可欠な学習手段だと思うので、使い方に慣れ、効率よく学習を進めてほしい。
- ・多角的な視点で学習をとらえたり、言語以外の方法で自己表現をしたり、多様な視点を身につけることができるため。
- ・Word、Excel、Power pointなど汎用的なソフトも活用して将来に役立ててほしい。
- ・画像や音声を使って学習できるので、文字だけよりも理解しやすくなると思うので。



考察 保護者もタブレットの活用を望んでおり、将来を見据えたICT教育を推進していく必要があります。また、家庭と学校との連携を強め、調べ学習や予習・復習など、家庭での効果的な活用を進めていく必要もあります。

今後期待されるタブレットの活用方法（小5・中2・保護者）

- ・授業で、個人やグループで何かを発表するときなど、スライドを作ったりして使ってみたい。（小5）
- ・授業だけじゃなく、クラブ活動や委員会活動の時に統計データのまとめたり、新聞を作ったりしたい。（小5）
- ・オンライン授業をしてみたり、他校と交流したりしてみたい。（小5）
- ・プログラミングなどを通して、アプリ作成や資料作成など難しいことにも挑戦したい。（中2）
- ・音声録音の機能を使って合唱の録音をしたい。（中2）
- ・意見を集めるときに話すのが苦手な人でも、みんなに意見を伝えることができるので、意見交流の場面での活用を進めてほしい。（保護者）
- ・これまでの発表はレポートにまとめたり言葉での説明が多かったが、職場体験の発表では、プレゼンなどを使って分かりやすくまとめ、発表する姿を見て、このような力をつけてほしいと感じた。（保護者）

全体考察・今後の取組

【全体考察】

- ★児童生徒対象の「タブレットを使った授業は分かりやすい」「授業中にタブレットを使うことは、自分の考えをつくらしたり深めたりすることに役に立つ」という項目は小5、中2ともに肯定的な回答が非常に高く、児童生徒は「タブレット活用の効果」を感じていることが分かります。
- ★友達との交流やグループ活動が盛んになったという意見が多く、多様な考えに触れる機会が増え、協働的な学びが進んでいることが分かります。
- ★「これからもタブレットを活用したい（活用を進めてほしい）」という項目では、児童生徒、保護者それぞれに肯定的な回答が約9割という高い割合となっており、将来を見据えた技能の習得にも期待があります。

【今後の取組】

- 市内の推進モデル校における公開授業の参観や、効果を上げている学校へ他校から学びに行くことができる小郡市教員一日留学体験研修を充実させ、学校間、教師間の活用格差の解消を図ります。
- 情報モラル教育について、市の基底カリキュラムを活用し、自分・人を傷つけることのない適切な活用態度を育む情報モラル教育の充実を図ります。
- ICT機器を利用する際の正しい姿勢や家庭におけるICT機器の利活用の仕方など、学習参観等を利用して学校と家庭が情報共有を図った上で、連携して取り組みます。また、児童会や生徒会の主体的な活動や地域の課題を解決するための探究的な学習を推進します。